

TEIKOKU DATABANK Historical Museum

Muse

2015.8
Vol. 26

帝国データバンク史料館だより [ミュージズ]

温故知人 07

祭りがつなぐ伝統、

地域の文化を守る

江戸町火消しが見た、変わる祭り、今も続く祭り

元篤職・江戸町火消 第三区四番組

元副組頭 渡辺肇さん

《逸品解題》—暮らす—

事業所があった街をたずねて〜高岡篇〜

祭りがつなぐ伝統、地域の文化を守る

江戸町火消しが見た、変わる祭り、今も続く祭り

元鳶職・江戸町火消第三区四番組 元副組頭 渡辺肇さん



渡辺肇さん

1931年生まれ。新宿区在住。この日着ているのは第三区四番組の半纏。四番組では、正月や会合など特別な時にこのそりの半纏を着るが、普段は各自の好きなデザインで仕立てた半纏を着ている。この半纏は「つみ第三」という模様で年寄りが着るものだが、現役の人が正式な時に着る半纏には、役（階級）も書いてあり、半纏を見れば、どこの組の火消しで何の役についているのかわかる。

■花園町内の鳶頭の家系

私は1931(昭和6)年、四谷区三光町(現在の新宿区新宿5丁目付近)で生まれました。江戸時代から代々鳶の家系で、伊勢丹の近く、新宿3丁目に本家がありました。鳶というのは働く場所が決まっています。鳶のところは花園町が管轄でした。鳶は担当する町名で呼び合うのが習わしで、父も渡辺ではなく花園町、本家も新三(新宿3丁目)と名乗っていました。

また父は四番組の組頭も務めていました。私はずっと副組頭を務めていたのですが、8歳を過ぎて隠居となりました。江戸時代の町火消しは、延焼を防ぐために建物を破壊することから、鳶が務めていました。いろは四十八組で地域ごとに区分けされていましたが、明治以降「く組」と「け組」が合併して現在の第三区四番組となったのです。

10歳の時に太平洋戦争が始まり、私も学徒動員で工場に行き、食糧や鉄砲、物資を飛行機から落下傘で降ろすための容器をつくっていました。8月15日は玉音放送を工場のラジオで聞きました。「ああ戦争に負けたんだ、明日から工場に来なくていいんだ」と思いましたね。

私が鳶の仕事を開始したのはその頃でした。焼け跡では建築需要が高まり、丸太を運んだりコンクリートを混ぜたりと最初は父の手伝いでした。もともと私は建築を学びたくて芝浦高等工学校(現・芝浦工業大学)に行ったのですが、学校に行かせてもらう条件が、夏休みや日曜日には父の仕事を手伝うということだったのです。だんだんこつちが面白くなってきました。

て、建築の方には進まず鳶の仕事を選びました。



■花園神社の祭り

神輿の担ぎ方はいろいろありますが、花園神社の場合は江戸前担ぎといって、リズムよく神輿が上下に揺れるのです。一方で四谷の須賀神社は四谷担ぎといって跳ねないのが特徴で、神輿がガタガタしないため丈夫で長持ちします。子どもの頃は山車、高校生になると神輿を担ぐことができます。私は鳶でしたから神輿を担ぎませんが、祭りにはずつとかかわり、見続けてきました。

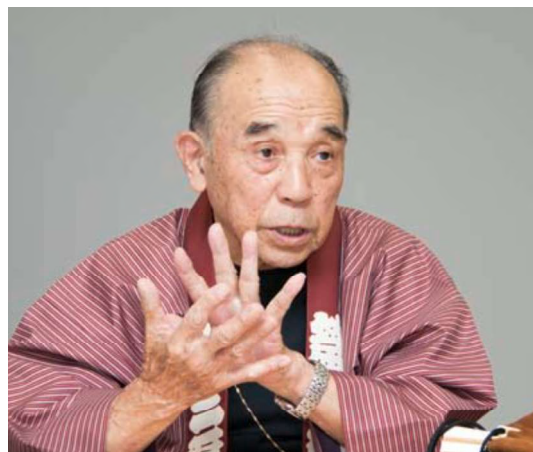
1959(昭和34)年、地下鉄丸ノ内線が全線開通しました。工事期間中は新宿通りが使えなかったため、神輿も細い路地を通っていたのです。工事が終わって、須賀神社が大通りに映えるように大きな神輿をつくと、対抗心で花園をはじめ

どこの町もこぞって大きな神輿をつくっていたのを覚えています。でも今は再び新宿通りで神輿を担ぐことは許可されていません。歩行者天国ができた時、歩行者のためのものだから、という理由で規制されてしまったのです。ちょうどその頃新宿では安保闘争が激しくデモを規制したのですが、祭りも同じだという話が出てそれが今も続いている。不思議なことに、明治通りは神輿は許可されています。私が鳶として祭りの手伝いを始めた終戦時は、たくさんの方が集まっています。花園町にもまだビルがなく、小さい店舗がたくさんありました。子どもたちも多く、みんな祭り好きでにぎわっていました。

■祭りをつなぎ、文化を守るために

時代とともに新宿は様変わりしました。次々とビルが建ち、住まいを移す人が増えていきました。そのため今は花園神社も須賀神社も町内の住民だけでは足りず、外部の担ぎ手の応援がないと神輿が担げない状況です。地方では人口減少ともなう過疎化で、祭りが実施できないことが問題になっていますが、都心でも少子化の影響があります。実際、花園神社の例大祭は1967(昭和42)年に5月27、28、29日と決まっていたのですが、平日だと担ぎ手や子どもが集まらないというところで、76年から、5月28日に一番近い土・日・月に変わっています。

私の中では、お宮があり、神輿があつて町内会がある以上、祭りをなくしたらダメだという気持ちがあります。祭りには

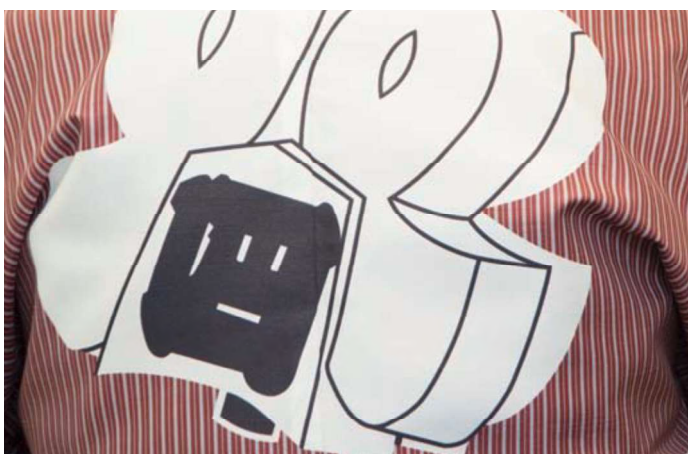


鳶が欠かせませんが、都心だと鳶の仕事がありません、なり手も少ないのが現状です。それでも神輿の急所を結わえたりするのはプロでないとできないことなので、少ない若手の鳶たちには、早いうちからやらせています。今の私は体のあちこちが痛いから、若い人に指示するだけです。覚えてもらって、またその人が年をとったら若い人に教える、というのを繰り返してほしいですね。また、火消組の中には担当する町内に鳶が1人しかいないところもあります。四番組は父の代から後進の育成に力を入れているおかげで、現在21人の鳶が活躍しています。声がかかれば他の町会の手伝いもしています。火消に欠かせない纏も、纏名鑑をつくり、意匠や名前を記録に残す活動をしています。

先人が守り、伝えてきたことを私たちの代で廃れさせてはならない。人を育て記録を残しながら、次の世代にしっかり引き継いでいくのが、今の私の使命かもしれません。

■地域の祭礼における鳶の役割

鳶の重要な仕事に、祭礼の采配があります。まず町内会の神輿蔵にしまつてある神輿を組みます。町内会の人も手伝ってくれますが、神輿の急所を結わえたりするのは鳶でないとできないのです。それから御旅所という、神輿の休憩所をつくり、御神酒所を各町に設置します。祭りの当日は、神輿のそばについて、不測の事態に備えます。その他軒先に提灯や造花を設置したり、門松やしめ飾りの製作販売、盆踊りの櫓を組むことなども鳶の仕事です。



逸品
解題

暮らす

企業の歩みを語る上で欠かせない「もの」がある。
原点でもあり、象徴でもある「もの」を残し、
伝えてきた企業博物館にとってこの一品はまさに逸品である。
第7回は「暮らす」をテーマにお届けする。

食。パン焼き器(四面式)

昭和初期【GAS MUSEUM がす資料館所蔵】

洋式化していく暮らしを 象徴するトースター

暮らしの洋式化に合わせるように、コーヒー沸かし器や卵茹で器といったさまざまなガス調理器具が登場した。この食。パン焼き器は、ガス七輪の上に食。パン焼き器をのせて焼く仕組みで、一度に4枚焼くことができる。



瀬戸火鉢

大正初期【GAS MUSEUM がす資料館所蔵】

ガスのある快適な毎日を支えた暖房器具

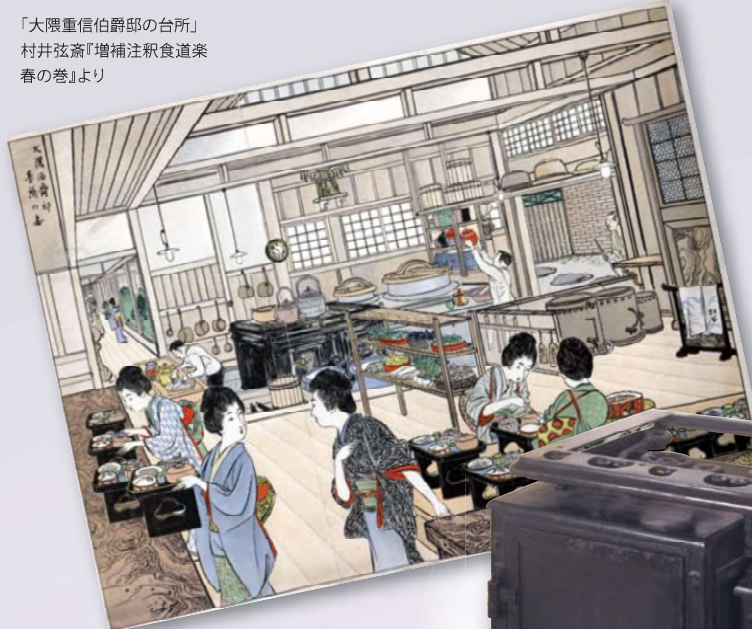
明かりとして使われていたガスも、大正時代になると熱源へと用途が広がる。暮らしの中で使うさまざまな「ガス器具」も誕生した。炭を使う暖房器具として一般的だった火鉢にもガス式が登場している。丸火鉢の材質は日本家屋の座敷になじむ陶器の瀬戸物で、火鉢の名残で灰を入れられるようになっていく。もちろんガス式なので灰は必要ない。



英国フレッチャラッセル社製ガスレンジ
明治後期【GAS MUSEUM がす資料館所蔵】

新しい暮らしの到来を予感させた ガスレンジ

明治時代後期、当時日本に輸入されたガス器具の一つである。ガス会社では調理器具の普及に力を入れ始めるが、そのほとんどが輸入品であった。1903（明治36）年出版された『増補注釈食道楽春の巻』の口絵には、近代的な台所として大隈重信伯爵邸の台所が紹介されているが、そこに同型のガスレンジが置かれていることから、高級品であったことがわかる。



「大隈重信伯爵邸の台所」
村井弦齋『増補注釈食道楽
春の巻』より



GAS MUSEUM がす資料館

- 東京都小平市大沼町4-31-25
- TEL:042-342-1715
- <http://www.gasmuseum.jp/>

蚊帳の博物館

- 静岡県磐田市中泉 235
- TEL:0538-32-5552
- <http://www.anmin.com/kaya/kaya-hakubutsukan/>

きくもんなごみかや
菊紋和蚊帳

2006（平成18）年【蚊帳の博物館所蔵】

眠りの空間を 徹底して追求した蚊帳

紀元前に中東から始まったとされる蚊帳は、日本では奈良時代に本格的に作られ始め、昭和30年代頃まで庶民の夏の寝具として親しまれてきた。エアコンの普及や住宅品質の向上で、蚊帳は社会的使命を終えたと考えられていたが、人にも自然にもやさしい寝具として再び注目を集めるようになった。

菊紋和蚊帳は、縦糸を絡ませながら横糸を固定していく「カラミ織」の蚊帳で、網目素材はもとより、つり紐、縁など細部にわたるまで良質の麻を駆使した究極の蚊帳である。



ゴールデン味の素®

1959(昭和34)年

【AJINOMOTO Umami Science Square 味の素グループうま味体験館所蔵】

子どものビタミン不足を 背景に開発

味の素®の発売から半世紀経ったこの頃、市場には後発品が次々と登場していた。味の素もさまざまな商品を打ち出していた時代であり、複合調味料という世界にない商品開発につながるターニングポイントでもあった。この商品は味の素®にビタミン群を添加したもので、子どもたちのビタミン不足などの背景もあり、うまみだけだけでなくビタミンを補える調味料となっている。



味の素®(ヘリングボーン式巻取缶)

1926(昭和元年)

【AJINOMOTO Umami Science Square 味の素グループうま味体験館所蔵】

食卓に品質とブランドを 届けるための容器

1909(明治42)年に一般向けに発売された味の素®の容器には、最初は薬品用のガラス瓶が採用されていた。味の素®が世の中で普及し始めるにつれて類似品が出回り、なかにはまぎらわしい商品名をつけた、品質に問題のある商品も少なくなかった。味の素®では消費者の手に届くまでしっかり品質を保持するために、コンビーフ缶でおなじみのヘリングボーン式巻取缶を採用した。特許を東洋製罐社と共有契約し、68(昭和43)年まで使用された。

歯磨の開発・改良だけでなく 啓発活動を通して口腔衛生をリード。



獅子印ライオン歯磨(1896年)

ライオン創業者の小林富次郎が東京・神田に小林富次郎商店を開業したのは、1891(明治24)年10月です。この1年前、富次郎はマッチの製造に必要な軸木の原木を北上川の洪水ですべて失い、死も考えたそうですが、神戸在住時に洗礼を受けた、長田牧師の葉書にあった言葉により死を思いとどまり、さらに旧知の友人の支援で石鹼とマッチの原料の取次ぎ販売の店を始めることができました。さらに石鹼製造にも着手し数種の石鹼を販売。いずれも良質廉価であったため大変な売れ行きだったようです。しかし需要期に波があることから生産状態を一定に保つために目をつけたのが「歯磨」でした。当時一番売れている歯磨は月の売上げが3,000円と言われていました。当時としては大変莫大な金額でしたので、新しい事業展開の芽を歯磨に求めたというこ



子ども向けの処方とパッケージでつくられたライオンコドモハミガキ(1913年)

ろです。すでにその時には200近い歯磨のブランドがあり、当社の歯磨市場への参入は、最後の方でした。

96年、第1号の「獅子印ライオン歯磨」が発売されます。これは粉の歯磨でした。この歯磨は、宣伝活動の充実と相まって大変な好評を博し、発売3年後には1カ月3,000円を売り上げるようになりました。その宣伝活動のひとつが楽隊広告です。口上係と楽隊などが全国行脚するというもので、「ライオンはみがき」と書いた広告のぼりと音楽の演奏で人々が集まってきたところに、口上係が歯磨の効能を述べ、聞いている人たちに、見本とチラシを配るといふスタイルでした。「獅子印ライオン歯磨」はドイツから輸入した原料や、英国製の香料を使うなど品質にもこだわり、さらに品質のよさはいろいろな展覧会、博覧会に出品して数々の賞をもらった

ライオン株式会社 総務部 社史資料室
室長 吉弘 実氏

ことでも裏づけられるかと思えます。そして実際に使ってみてその品質のよさが実感できたことが、売れ行きにつながったのだらうと思えます。

富次郎はまた、事業を通して社会に貢献したいと考えていました。そこで1900(明治33)年、「慈善券付ライオン歯磨」を発売しています。これは、消費者が歯磨の空袋を養護施設や慈善団体に持つていく、その団体はその袋を小林富次郎商店に渡すと、枚数に応じた金額が受け取れるという仕組みです。この活動は20年間続きました。

11年には、日本で初めてチューブ入り煉り歯磨を発売。さらに13(大正2)年には口腔衛生普及活動を始めました。食生活などの生活習慣も大きく変わるなか、口腔衛生への関心に注目することは国民の健康向上につながるとの信念から始めたものでした。さらに当社は21年、日本で最初の児童専門歯科医院の設立や、32(昭和7)年に第1回大会を実施した学童歯磨教練体育大会の開催を通じて、子どもの口腔衛生に関わる活動に積極的に取り組んできました。現在は「学童歯みがき大会」となり、72回目の今年も海外からも7カ国が参加し、全国で1,300校7万人

の小学生が参加しました。ライオンの誇りは、創業以来一貫して、社是である「わが社は、『愛の精神の実践』を経営の基本とし、人々の幸福と生活の向上に寄与する」を具現化してきたことです。日本の口腔衛生活動をリードし、事業を通じて社会に奉仕するという姿勢を貫いた創業者の精神は、現在の製品づくりやCSR活動に息づいています。



チューブ入り煉り歯磨(1911年)

特許ラミネートチューブを採用した
ホワイトアンドホワイトライオン(1970年)

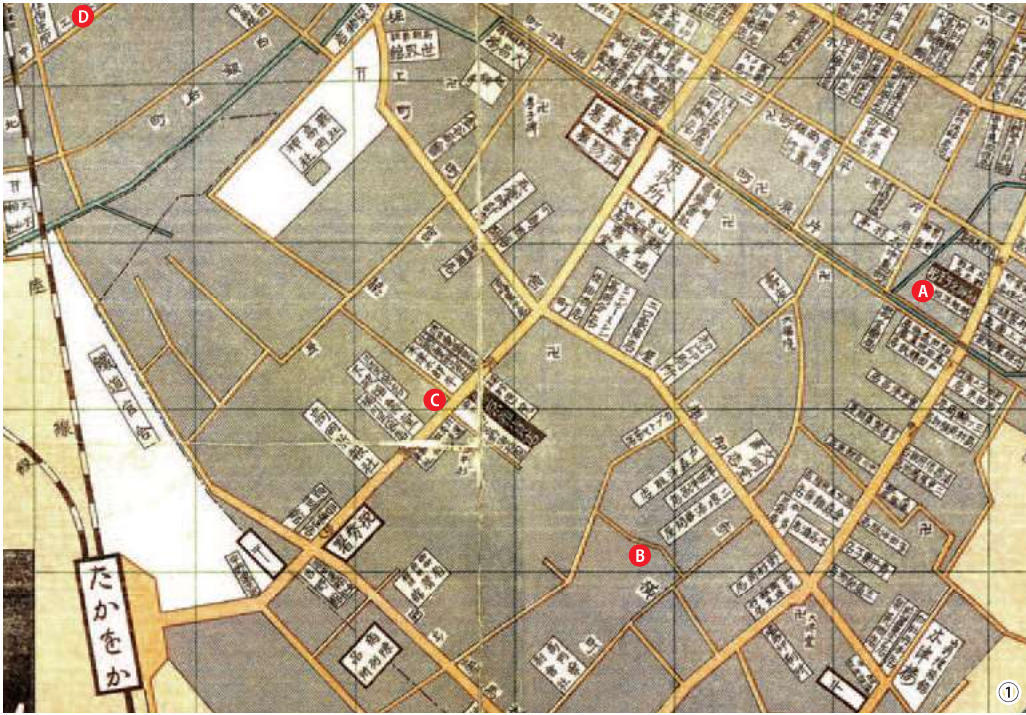
事業所のあった街をたずねて

商業、金融、工業が
交差した街

高岡篇



高岡には漆器や銅器商が、伏木には運送会社が多く存在していた(「大日本職業別明細図之内 高岡市 伏木町 新湊町 氷見町」1925年1月、高岡市立中央図書館所蔵)



- ①高岡支所が事務所を構えた場所。A片原中島町、B御旅屋町、C末広町、D南町
(「大日本職業別明細図之内 高岡市 伏木町 新湊町 氷見町」1925年1月、高岡市立中央図書館所蔵)
- ②昔ながらの土蔵造りの町並みが今も残る木船町。かつて事務所を置いていた片原中島町にほど近い場所
- ③大正末期の木船町(高岡市土蔵造りのまち資料館所蔵)。当時は商店が軒を並べ、人通りも多く街は賑わっていた
- ④1927年から閉鎖された33年まで事務所を構えていた南町

明治末期から大正初期にかけて、

積極的に事業所を開設していった帝国興信所。

富山市と金沢市の中間に位置する交通の要衝であり、江戸時代から加賀百万石領内随一の商工都市として発展してきた富山県高岡市にもまた事業所があった。

■相次いで北陸に事業所を開設

1912(大正元年)10月、帝国興信所高岡支所は開設された。北陸では2年前に金沢、富山と事業所の設置が相次ぎ、高岡と同時期には福井にも開設された。

当時の高岡は、貿易港として栄える伏木港に隣接し、米取引所や地元の金融機関も多かった。また日清紡績高岡工場として今も残る高岡紡績や、北陸電力の前身である高岡電燈などもあり、商業と金融、工業で賑わいを見せていた。

■「北陸の大阪」と呼ばれていた高岡

高岡は1609(慶長14)年、加賀藩二代藩主前田利長による高岡城築城に伴って商人や職人が集められ、城下町として誕生した街である。しかしわずか5年後、「一国一城令」によって廃城となり、武士や職人の多くが高岡から引き揚げてしまう。その後、三代藩主前田利常が復興に力を注ぎ、高岡に残っていた武器職人などは仏具や装身具の製作に携わるようになり、銅器や漆器とともに現在に続く伝統工芸の礎を築いた。



②



④



③



また前田藩支配下の加賀・越後・能登三州全域に様々な商品を流通させる問屋街があったこともあり、「北陸の大阪」と称されてきた。明治維新後も商都としての機能に変わりなく、時に「がめつい」とも評される高岡商人によって発展を遂げていく。

1928(昭和3)年12月に帝国興信所富山支所が発刊した『富山県名鑑』によれば、当時の高岡市は「戸数9,055戸、人口45,446人(昭和元年末時点)」で、「商工業は漸次発展し来り、市街繁賑、今や縣下第二の都会として著名なり」と書かれていることから当時の隆盛がわかる。

■県内3事業所体制を経て閉鎖へ

高岡支所は稼動期間21年間で、末広町、片原中島町、御旅屋町、南町の順に4カ所に事務所を構えた。南町を除けば市役所や郵便局、高岡銀行や高岡商業銀行が集まる中心部に位置していた。なお、現在も南町を除き町名はそのまま残っているが、当時の事業所を偲ばせる建物は残っておらず、平日は人通りも少ない閑散とした街である。

片原中島町の高岡支所跡近くで当時から紙卸業を営む方によると、昭和初期は仏具店や呉服店をはじめ多くの商店が軒を並べ、人通りも多く街は賑わい、商取引は活発であったそうだ。

1922(大正11)年12月、新湊に出張所を開設し、富山県内は3事業所体制となった。しかしそれぞれの営業地域が狭い範囲に限られたこともあり、業績は思うように

伸びなかった。その結果、高岡支所は33(昭和8)年9月に新湊出張所とともに閉鎖され、21年間の活動に終止符を打った。調査業務は富山支所が引き継ぎ、調査員は富山支所の所属となったが、皆、時を同じくして依頼解職となり当社を去っていった。



『脱俗』1933年10月

■歴史都市としての高岡

現在の高岡市は依然として県内第2位の人口を抱える中核都市であるものの、人口はやや減少傾向、世代構成も高齢層比率が高まりつつある。近時の高岡市内企業に対する当社の調査件数も、最盛期には1,000件近くあったが、現在は大きく減っており、企業活動は富山市の比重が高まっている。

ただし北陸新幹線開通によって東京からのアクセスがぐっと良くなった高岡は、長い歴史と豊かな文化資産を背景に「歴史都市」としての街づくりを進めており、古くとも新しい魅力を発信し続けている。

【余話】

当時の社内報によると、1927(昭和2)年5月に高岡支所を退職した要塚誠次という人物が翌6月に小樽支所へ入所していた。北海道の函館や小樽には、北前船の寄港地であった北陸から移り住んだ北陸系商人が数多くいた。特に小樽では明治後期以降、富山県出身者が活躍することは珍しくなく、富山県に本店を置く十二銀行、中越銀行、第四十七銀行なども進出していた。

帝国データバンクの出版物は創業以来、
幾多の企業広告を掲載してきた。
100年前と比較して、
広告はどのような変遷をたどったのだろうか。

広告いまむかしー7

JX日鉱日石エネルギー

『帝国銀行会社要録』第7版に掲載された広告



1933年頃の給油所とガソリンガール

一次世界大戦の影響で石油の需要が増加している時期だったことから、石油を安定供給する姿勢を企業や取引先に広く告知するために、広告を掲載したのではないのでしょうか」と語る。

現在は一般消費者に向けて、事業内容を広く認知してもらう広告を行っているそうだが、今年の春、石油・ガス・電気供給のカテゴリーにおいて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナーとなり、テレビと新聞で広告キャンペーンを打ち出したのがこの広告である。

「当社の前身である日本石油は、1964(昭和39)年開催の東京オリンピックの際に、聖火の燃料となる灯油とガスを供給しました。この広告では、当社の燃料を使って燃えている聖火をビジュアルに、東京2020ゴールドパートナーとして、新たなエネルギー社会の創造に貢献していきたいという当社の使命感を表現しています」と(松下さん)と語るように、力強いメッセージが伝わってくる広告である。

およそ1世紀の間に幾度も社名が変わり、石油会社から総合エネルギー企業となったが、全国津々浦々へのエネルギーの安定的な供給に努めていくという変わらぬ使命感が、2つの広告から読み取れる。

1918(大正7)年の『帝国銀行会社要録』に掲載されている日本石油の広告は、中央に大きく社名、右に営業品目、左に販売所の住所と、非常にオーソドックスなスタイルだが、この中で目を引くのが蝙蝠(こうもり)マークである。JX日鉱日石エネルギー株式会社の広報部宣伝グループマネージャーの松下公美子さんに伺うと「創業時、日本石油の創立記念式典の会場に、蝙蝠が舞い込んできたそうです。蝙蝠の蝠は音読みでフクとなり福に通じることから、縁起物として蝙蝠マークを商標にしたという記録が残っています」と解説してくれた。昭和初期の花形職業であったガソリンガールを撮影した写真からは、給油所にも蝙蝠マークがついていることが確認できる。このマークは時代とともに少しずつ形を変え、三菱石油と合併する99(平成11)年まで使われていた。

JX日鉱日石エネルギー株式会社は、1888(明治21)年、内藤久寛、山口権三郎らによって新潟県刈羽郡石地で創立した有限責任日本石油会社にルーツを持つ。松下さんはこの広告の存在を今回初めて知ったということだが「この頃は、第



2015年4月、全国紙および地方ブロック紙に掲載された広告

PICKUP

テーマ展示新企画 「信用調査」開催中

6月30日～9月25日

6月30日より、常設展示室「テーマ展示」コーナーにて、当社の基幹商品である調査報告書の変遷を紹介しています。調査報告書ができるまで、報告書様式の変遷、新旧調査報告書の調査項目比較などを、パネルでご覧いただけます。またデジタル展示では、調査報告書のサンプル、調査報告書の読み方、100年近く前の調査報告書などのコンテンツをご用意しています。皆さまのご来館をお待ちしております。



中国からお客さまが 来館されました



6月22日、中国よりお客さまが来館されました。上海市政府で特区政策を企画する部門の方々です。凌志軟件(リンクージ)社引率のもと、常設展示室の見学と、質疑応答が交わされました。日本の信用調査業のしくみ、システム構築の課題などが話題に上がりました。



『別冊 Muse2015』今秋刊行予定

2012年に始まった『別冊 Muse』を今年も刊行します。今年のテーマは「記憶を記録し、残して伝える」です。刊行が近くなりましたらホームページ等でお知らせします。



表紙のご案内

『帝国興信所報』『帝国タイムス』の題字活字

『帝国興信所内報』は1906(明治39)年の創刊以来、紙名を『帝国興信日報』『帝国興信所報』『帝国タイムス』と改題し、現在に至る。産業経済界や地域経済についての記事を中心に掲載しており、当社で最も長く続いている出版物である。創刊時はガリ版刷りだったが、部数の増加とともに輪転機を導入して、本社内に印刷工場を置くまでになった。当社ゆかりの桜マークが背景にあしらわれている『帝国タイムス』の題字は、83(昭和58)年9月まで使われていた。

帝国データバンク史料館

〒160-0003 東京都新宿区本塩町22-8 TEL.03-5919-9600 (直通)

ご来館の際は、1F受付にお越しください。

ご利用案内

- [入館料] 無料
- [開館時間] 10:00~16:30 (入館は16:00まで)
- [休館日] 土・日・月曜日および祝日、年末年始
(その他展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。)

交通のご案内

- [JRご利用] 中央線・総武線 市ヶ谷駅 徒歩8分
中央線 四ツ谷駅 四ツ谷口から徒歩9分
- [地下鉄ご利用] 南北線・有楽町線 市ヶ谷駅 7番出口から徒歩6分
都営新宿線 曙橋駅 A4番出口から徒歩9分
丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅 2番出口から徒歩9分

ご来館の際には館内のご案内、ご質問など、お気軽にお申し越しください。
なお、当館ホームページで展示内容や最新ニュースなどをご紹介しています。

www.tdb-muse.jp